

① 金 & 銀

- ⇒ ドル建て金価格 1815ドル +31ドル(+1.75%)
- ⇒ ドル建て銀価格 27.43ドル +0.91ド(+3.44%)
- ⇒ 久しぶりに金銀価格が大幅上昇してきました
- ⇒ 金の1700ドル割れは中国やインドの積極的な買いがあったことから、需給的に底値圏と考えられます
- ⇒ 銀は2月の30.35ドルを超えそうですね
- ⇒ 銀は150ドルに向かうような気がしてなりません

【ドル建て金価格:2年】



【ドル建て銀価格:2年】



② テスラ

⇒ イエレン財務長官の金利上昇容認発言から軟調

⇒ 4月14日が2番天井だったか

【テスラ:6ヶ月】



③ 為替（参照：日経電子版）

各国の景気格差が通貨の選別を促している。米国の堅調な景気回復を受け、ドルは対ユーロや円で上昇。新型コロナウイルスのワクチン普及や良好な経済指標を好感したドル買いが入り、再びドル高基調となっている。

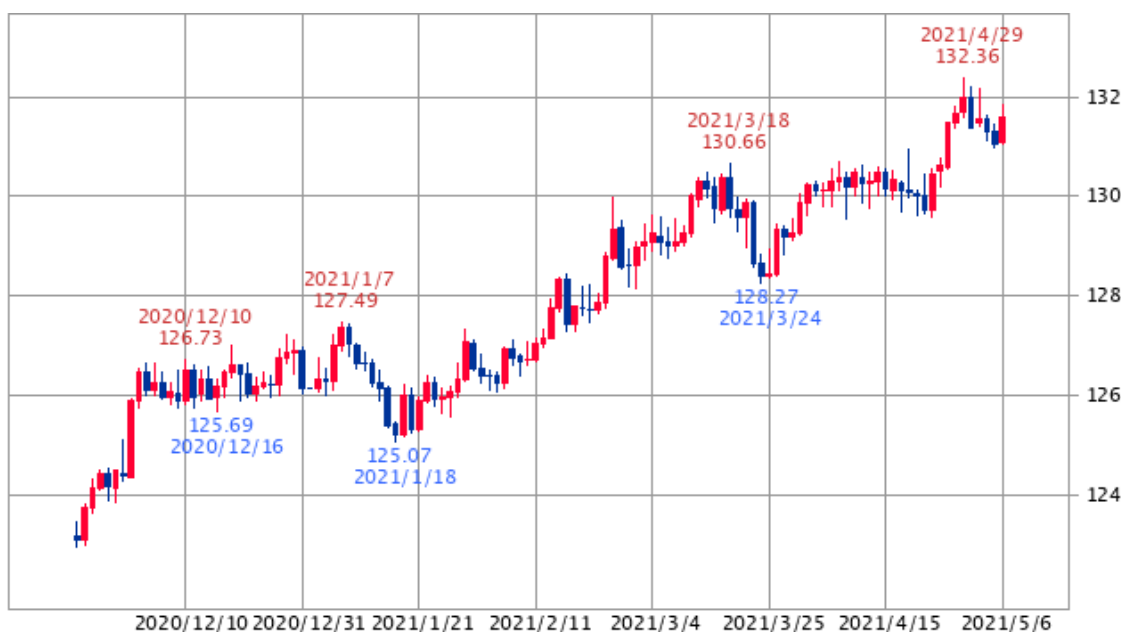
6日の外国為替市場でドルは対ユーロで一時、前日に続き1ユーロ=1.19ドル台後半と約2週間ぶりの高値をつけた。対円では1ドル=109円台半ばに上昇し、4月下旬につけた107円台半ばの安値圏から反発している。

背景には各国間で景気回復の勢いに差が生じていることがある。米サプライマネジメント協会(ISM)が5日発表した4月の非製造業景況感指数は、好不況の分かれ目とされる50を大幅に上回る62.7だった。

一方、4月30日に発表された2021年1～3月期のユーロ圏の実質経済成長率は前期比年率でマイナス2.5%。18日に発表予定の日本の成長率もマイナスが見込まれる。6.4%成長だった米国とは対照的で、野村証券の春井真也氏は「景気回復では米国との差が鮮明になっており、ドル高が続きやすくなっている」と指摘する。

日本では3度目の緊急事態宣言の発令で景気の下押し圧力は強く、ドルの対円相場は上昇基調が見込まれる。一方、対ユーロでは、春井氏は「ユーロ圏ではここにきてワクチン普及が進んでいる。欧州中央銀行(ECB)が6月の理事会で債券購入ペースの減速に言及すればユーロ高材料」とし、ドルの対ユーロ相場は反転する可能性もある。

【ユーロ：6ヶ月】



④ 豪ドル

⇒ 1 豪ドル=84.90-95 円。いよいよ 90 円に向けてスタートしそうです。米長期金利上昇次第では、100 円に向かう可能性があります

【豪ドル: 10 年】

